

「県央地区 交通安全大会 高校生探究発表」

大会テーマ : 1メートルは一命取る

発表校 : 愛川高等学校 厚木北高等学校 大和高等学校 大和南高等学校

1 はじめに

県央地区では「1メートルは一命取る」を大会テーマに、令和3年度交通安全大会を開催しました。全12校の発表が行われ、生徒たちにとって、改めて交通安全への意識を高め、交通事故を身近なもの実感する機会となりました。

その中で、「高校生探究」として発表された4校の発表内容を紹介します。

2 愛川高等学校による探究発表

愛川高等学校は「自転車の危険運転」を探究のテーマに発表を行いました。

課題

愛川高校の課題

- ・信号の変わり目で車との接触事故が起きている
- ・道が狭い→車道と歩道の間を**猛スピード**でいく
- ・歩道を2列で行く
- ・イヤホンをつけて走っている
- ・自転車の**2人乗り**
- ・**スピード**の出しすぎ

仮説

愛川高校の生徒は交通安全に対してどのように考えているのか



全校生徒に**アンケート**を実施

実験(アンケート)

アンケート結果

全生徒617名
当日に欠席した生徒: 50名→567
アンケート回答結果: 464名

↓
回答率81%

実験(アンケート)

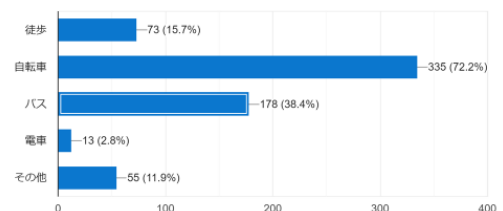
アンケート項目

- ① 通学方法について
- ② 自転車の乗り方について
- ③ 学校周辺の交通環境について

①通学方法について

・ 徒歩	73名
・ 自転車	335名
・ バス	178名
・ 電車	13名

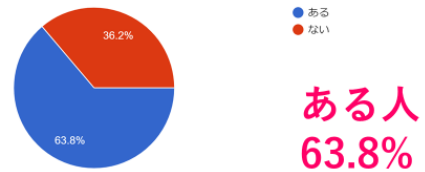
普通学校にはどのような手段で主に登校しますか? ※複数ある人は複数選んでください。
464件の回答



自転車通学者が大変多い

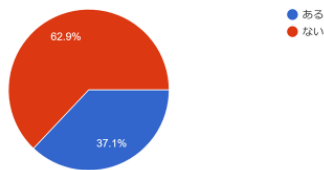
② 自転車の乗り方について

自転車の並列走行をしたことがある。もしくはしている人を見たことがありますか？
464件の回答



② 自転車の乗り方について

自転車での危険運転を見たり、実際に自分がしたことがありますか？
464件の回答



具体的な危険運転の例

- ・ 自転車の2人乗り
- ・ 坂を猛スピードで下る
- ・ 自転車の3人乗り
- ・ 信号無視
- ・ 車道の真ん中を走る

③ 学校周辺の交通環境について

- ・ 自転車の通り道が狭い
- ・ 高田橋手前の坂
- ・ 学校周辺の交差点

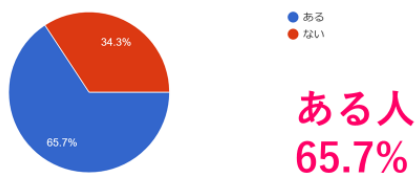
まとめ

この現状を打破するために

- ・ 愛川町に打診
→ 愛川高校生の意見として

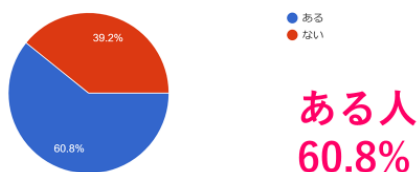
② 自転車の乗り方について

自転車の二人乗りをしたことがある。もしくはしている人を見たことがありますか？
464件の回答



② 自転車の乗り方について

イヤホンをつけたまま自転車に乗ったことがある。もしくはそのような人を見たことがありますか？
464件の回答



3 厚木北高等学校による探究発表

厚木北高等学校は「高校生の事故実態と事故の危険性や損害について」を探究のテーマに発表を行いました。

1. 神奈川県の高校生の交通事故発生件数

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
発生件数	127	119	136	122	108	961
死者数	5	9	3	8	1	7
負傷者数	115	110	125	113	100	838
	8	4	5	7	3	

神奈川県の高校生の交通事故（年別推移）
令和二年度 神奈川県警察本部交通部交通総務課統計より

2. 神奈川県の高校生の交通事故 時間帯別内訳

	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	0~2	2~4	4~6
発生件数	75	207	61	123	84	146	126	80	26	14	11	0.8

神奈川県の高校生の交通事故（年別推移）
令和二年度 神奈川県警察本部交通部交通総務課統計より

3. 神奈川県の高校生の 交通事故状態別負傷者数

	自動車	二輪車	自転車	歩行中
負傷者数	71	233	476	57

神奈川県の高校生の交通事故（年別推移）
令和二年度 神奈川県警察本部交通部交通総務課統計より

4. 高校生の自転車事故における 違反の割合

	高校生	全体
事故発生件数	8616件	98700件
違反数	5894件	64287件
違反率	68.4%	65.1%

公益財団法人交通事故総合分析センター
イタルデザインフォーメーションより

5. 高校生の交通事故の実態

- ・発生件数は減少しているものの、コロナ禍の影響によるものと考えられるため、減少しているとはいえない。
- ・その反面死者数は増加。
- ・朝の登校時間、自転車乗用中に発生件数が集中。

6. 登校時の観察

朝と放課後の時間帯に高校生の自転車の運転を観察。

- ・両耳のイヤホン装着
- ・片手運転
- ・スマートフォンの操作
- ・坂道でのスピード超過
- ・歩道や右側の通行
- ・一時停止無視

7. 高校生の自転車事故が多い理由

- ・交通事故の危険性に対する認識が甘い
- ・自転車 = 車両であるという意識が乏しい

8. 私たちができること

- ・交通事故の危険性を知るとともに、その情報を周囲に伝える。
- ・正しい交通ルールやマナーを自ら学び、実際の現場での行動に結びつける。

9. 交通事故の衝撃力

- ・時速40キロの車と衝突する
ビルの2階（6m）から車を落下させた衝突
- ・時速60キロの車と衝突する
ビルの5階（14m）から車を落下させた衝突

牧野隆 著『図解交通資料集第4版』より

4 大和高等学校による探究発表

大和高等学校は「自転車免許制度は必要か？」を探究のテーマに発表を行いました。

10. 交通事故による損害（1）

- 加害者となった場合
【数千万～1億円程度の損害賠償金】
（事例）
男子高校生が夜間イヤホンで音楽を聴きながら無灯火で自転車を運転。
パトカーの追跡から逃走中、職務質問中の警察官に衝突。
頭蓋骨骨折等で約2ヶ月後に警察官は死亡。

9330万円

11. 交通事故による損害（2）

- 被害者となった場合
ケガや後遺症、最悪は死に至る
通院・治療に費やす時間とお金
自転車や車両の修理
学校や会社に行けなくなる
精神的苦痛やトラウマ

12.まとめ

今回探究活動で調べ学習をする中で、事故の恐怖と事故によって生じる損害の大きさを知ることができ、交通ルールを守ることの大切さを常に忘れてはいけないと改めて実感した。

12.まとめ

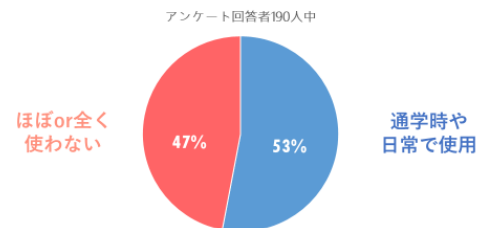
- 違反は交通事故へ繋がる。私たちは今回の探究活動で学んだことを、周囲の人々に伝えると共に違反をする人への声がけをすることで、高校生の交通事故が少しでも防げるよう努めていきたい。

最後に、今日知ったことをみなさんの周りの大切な人たちに伝えてあげてください。



自転車のルールはどの程度認知されているのだろうか

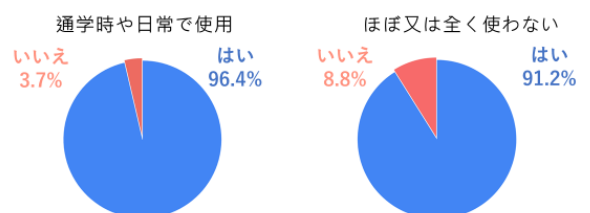
本校生徒の自転車使用率について



①「止まれ」の標識は自転車に乗車時、止まらなければならない



①「止まれ」の標識は自転車に乗車時、止まらなければならない



②交差点では、自転車は二段階右折をしなければならない

・小回り右折

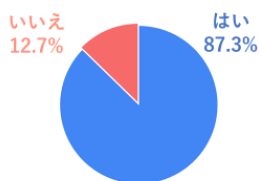


・二段階右折

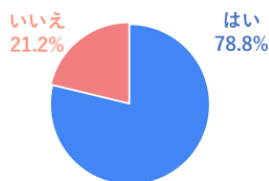


②交差点では、自転車は二段階右折をしなければならない

通学時や日常で使用



ほぼ又は全く使わない

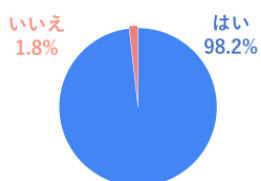


③両耳にイヤホン等を着用して、自転車に乗ってはいけない

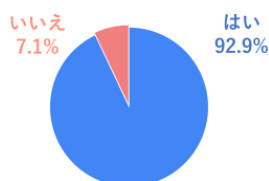


③両耳にイヤホンを着用して、自転車に乗ってはいけない

通学時や日常で使用



ほぼ又は全く使わない



アンケートの結果からわかったこと

- ・基本的な知識は持っているが、重要ながらあまり認知されていない内容のルールも存在した
- ・小学生くらいの幼い頃から交通安全の教育を受けてきた高校生にすら認知度が低いルールが存在する
→まだまだ交通ルールへの知識や意識が社会全体を通して足りていないのではないかと

自転車免許制度を導入したら...?

メリット

◎乗る人の安全意識向上

- ・知識をしっかりと学ぶことになるため安全意識が向上する
- ・警察が違反切符を切りやすくなるため、危険運転の減少につながる

デメリット

◎自転車に乗る人が減少する可能性がある

- ・気軽に乗れるという大きなメリットが損なわれてしまう
- ・管理等が自治体・個人ともに負担が大きい

自転車免許制度に関する生徒の意見

賛成派

- ・以前から学生や児童、高齢者の危険な運転が気になっていた。
- ・近年、自転車でのあおり運転も目立つため安全意識の向上には免許制度が必要

反対派

- ・誰もが気軽に利用できることが良さ
- ・危険運転や交通事故の問題は、講習会をより多く行ったり、危険運転に対する罰則を厳しくすることで解消できる

まとめ

- ・自転車免許制度はメリットよりもデメリットが大きい
- ・免許制にすることよりも、正しいルールを知ってもらい自転車マナーの向上を図るべき
- ・そのためには、老若男女問わず講習会等への参加を義務付けるなどして、正しい知識・意識を持ってもらうことが重要なのではないかと

5 大和南高等学校による探究発表

大和南高等学校は通学路をドライブレコーダーで撮影し、結果をまとめました。

校門を出てから
ロルフ宝幸前の交差点、通り。

本校周辺の事故が起きそうと思われる場所を、ドライブレコーダーや写真で撮影しました。



校門前の通り

たくさんの自転車が渡ろうとしていた場所。信号がない。しかし、渡らないと道が狭く危険なので、親切な車両に譲ってもらうしかない。朝も先生方が立って登校指導をしていた。



学校近くの広い通りに出るところで、信号がない横断歩道。徒歩通学も電車通学の生徒もよく通るが、信号がないので大変危険なところ。
しっかり左右確認をする必要がある。
校門の前を飛び出している生徒もいました。

直線で見渡しが良いが、歩道も歩道の外の白線も狭い道。また、歩道には「自転車走行禁止」と、地面にかかれていたり看板がたっている。しかし、車通りが多いので、歩道を走ってしまう生徒が多いようだ。

雨の日の道

雨の日は、自転車は滑りやすく見渡しが悪い。さらに車の通行量も増えるので、危険がより増える。
バス停が学校に向かって、左側にあり、横断歩道までの道のりも遠い。



他にも、交差点や歩道が片側にしかない狭い道がたくさんあります。

本校の交通事情 まとめ

- ・自転車通学の生徒が大半
- 生徒の交通マナーに関する電話をいただく
- ・車通りが多く、トラックのような大きい車もよく通る
 - ・信号がない横断歩道が多い
 - ・道幅が狭い

6 最後に

紹介した4校以外にも、県央地区の多くの高校生による発表が行われ、充実した大会となりました。

終了後のアンケートには「改めて交通事故について考える良い機会となった」、「交通事故を身近に感じた」、「今後も下級生が続けることで、少しずつ交通事故を減らせるのではないか」など、前向きな発言が多く、今回の交通安全大会は非常に良い大会となりました。